**令和５年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ**

**佐賀市立北川副小学校**

　４月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

　結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

**■　調査期日**

　　　令和５年４月１８日（火）

**■　調査の対象学年**

　　　　小学校６年生児童

**■　調査の内容**

　（１）　教科に関する調査（国語、算数）

|  |
| --- |
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |

（２）　生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

|  |  |
| --- | --- |
| 児童に対する調査 | 学校に対する調査 |
| 　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査（例）国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など | 　指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査（例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など |

■調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

**■　調査結果及び考察**

**１　国　語**

（１）結　果

　　　全体としては，全国平均とほぼ同等の結果でした。「知識・技能」は全国平均正答率を2.1％，「書くこと」は3.0%上回っています。「話すこと・聞くこと」，「読むこと」においては，全国平均よりも低くなっています。問題形式別の正答率では，「選択式」，「短答式」の正答率は全国平均を上回っていました。しかし，「記述式」においては，全国平均を5.2%下回っていました。

（２）成果と課題

　　　　今回の調査結果を問題形式別にみると，「選択式」，「短答式」の問題の正答率が，全国平均正答率を上回るという成果が見られました。それに対して，「記述式」の問題では，正答率が全国平均正答率を5.2ポイント下回りました。また，「記述式」の問題の無解答率が全国平均の倍以上になるものも見られました。よって，「記述式」の問題を苦手としている児童が多くいるため，「記述式」の正答率を上げることが課題です。単なる「知識」を問う問題ではなく，「思考力・判断力・表現力」を重視した「記述式」の問題にも抵抗なく取り組める力を付けていくことが重要であると捉えています。

（３）　学力向上のための取り組み

**【学校では】**

　・条件（段落の数，字数など）やキーワードを基に，自分の考えを書いたり、まとめたりする活動を取り入れます。

　・問題文に線や印を付けて文章を読む習慣を身に付けられるようにします。

　・「読書デー」を設け，読書に親しみ，新しい文章に触れる機会を増やします。

**【ご家庭では】**

・お子さんが書いた作文などを見てください。書かれた内容について詳しくたずねたり，感想を

伝えたりして，楽しく会話するきっかけの一つにしていただきたいです。

・「読書デー」をはじめ，日頃から読書をする時間を大切にしましょう。語彙力を高め，知識の幅を広げるためにも読書は効果的です。図書館に行く，読書について話題にするなど，読書環境を整えていただければと思います。

**２　算数（数学）**

（１）結　果

　　　　「数と式」，「図形」，「変化と関係」，「データの活用」の４つの領域全てにおいて，全国平均正答率を下回っています。無解答率をみると，１６問全てが全国平均より高くなっていました。

　（２）成果と課題

　　　今回の調査では，「数と式」領域における（　）を用いた式や，加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるのかという問題において，全国平均を上回る成果が見られました。一方，「数と式」領域における示された日常生活の場面を解釈し，小数の加法や乗法を用いて，求め方と答えを式や言葉を用いて記述し，その結果から条件に当てはまるかどうか判断する問題において大きな課題が見られました。この問題を含め，他の「記述式」の問題においても，全国平均を12.4％下回っていました。よって，計算問題を解くだけではなく，求め方や答えを式や言葉を用いて記述する問題にも取り組める力を付けていくことが重要であると捉えています。

（３）　学力向上のための取り組み

**【学校では】**

・式から答えを出すだけではなく、図を描いてイメージをもたせるなどして，式の意味を考えられるようにします。

・問題文に線を引かせたり，１単位あたりを意識させたりして，問題で求められていることを明確にしてから立式できるようにします。

・ノートチェック，プリント，ドリル，宿題，日々の指導の中で個々のつまずきを見つけて補充指導をしたり，復習を取り入れたりします。

　**【ご家庭では】**

・算数の学習では、「学習したことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。「家から〇〇までが約１ｋｍ」や「ｍＬ」や「Ｌ」を身の回りの飲み物などで体感させるなど，生活場面において学習したことに触れさせてください。

・宿題の計算の間違いは，その場で訂正することが一番効果的なので，確認をして訂正させていただけるとありがたいです。

**３　生活習慣や学習習慣に関する調査**

1. 結果

※「当てはまる」「どちらかで言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち

「当てはまる」と回答した児童（生徒）の割合。

　≪生活習慣・自己肯定感・規範意識について≫

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 調査項目 | 本校　％ | 全国平均 ％ |
| 朝食を毎日食べていますか。 | 82.0% | 83.7% |
| 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。 | 27.9% | 38.1% |
| 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。 | 44.1% | 55.1% |
| 自分にはよいところがあると思いますか。 | 40.5% | 42.6% |
| 将来の夢や目標を持っていますか。 | 58.6% | 60.8% |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 | 74.8% | 75.3% |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 | 82.9% | 82.6% |

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを整えることが，生活や学習にもよい影響を与えます。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

≪家庭学習の様子≫

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 調査の項目 | 本校％ | 全国平均 ％ |
| 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。 | 25.2% | 28.7% |
| 学校の授業時間以外に、普段１日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「３時間以上」 | 3.6% | 11.8% |
| 「２時間以上、３時間より少ない」 | 11.7% | 13.8% |
| 「１時間以上、２時間より少ない」 | 18.9% | 31.5% |
| 「３０分以上、１時間より少ない」 | 42.3% | 26.9% |
| 「３０分より少ない」 | 17.1% | 11.4% |
| 「全くしない」 | 6.3% | 4.6% |

　　家庭学習についても全国平均を下回っています。勉強とは，教科内容だけでなく，自分の興味のあることを追究していくことも含まれます。まずは，お子さんが「やってみたい。」と思うことを明確にすることが大切です。

（２）改善に向けての取り組み

**【学校では】**

・生活習慣に関しては，家庭科や保健の学習，学級活動の時間において引き続き指導を継続していきます。

・「ぽかぽかカード」の活用や人権・同和教育の取り組みを通して，自己肯定感や規範意識を高めていきます。

・学校からは，学年が上がるにつれて，自分で内容を決めて取り組む学習（自主学習）を勧めています。自主学習については，どのようなことをどのようにすればよいか，モデルを示したり紹介したりしていきます。

・どのような学習活動においても，結果だけではなく，そこに至るまでの過程についても認めたり，励ましたりしていきます。

**【ご家庭では】**

○生活習慣や家庭学習については，「豊夢ワーク週間」でも取り上げている項目です。規則正しい生活と家庭学習が定着することは、期間中だけでなく，日々の生活が大きく関わります。今後も，ご家庭においてお子さんへの声かけや励ましをお願いいたします。